

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

加 来 節 雄 氏	山口市医師会	11月19日	享年 91
筒 井 秀 樹 氏	下関市医師会	12月13日	享年 65
中 辻 理 子 氏	下関市医師会	12月21日	享年 72
永 谷 忠 氏	宇部市医師会	1月16日	享年 93
津 田 穰 氏	徳 山医師会	1月20日	享年 95
福 田 敏 一 氏	防 府医師会	1月25日	享年 99
尾 縣 寛 明 氏	山陽小野田医師会	1月26日	享年 93
久 和 孝 氏	山口市医師会	1月26日	享年 64

編 集 後 記

「断捨離」、ご存知ですね。「断」は入ってくるいらぬものを断つ。「捨」は、家にずっとあるいらぬものを捨てる。「離」は物への執着から離れる。私、最近「捨」に励んでいます。そして出てきたとんでもない量の不用品の山を前にすると、十年前、二十年前の自分に悔い改めると言ってやりたい。家族構成が大きく変わった今、生活用品の分別に迷いはない。洋服は、サイズ（大きな理由）、流行があるので手放すしかない。処分には困るのは、本。若者と違い、私には、本は情報ではなく、一緒に過ごした時間。高価なものはないけれど捨てるに忍びないし、近所の古本屋は漫画と実用本やベストセラー以外は引き受けてくれない。しかし、このまま置いておけば、いずれわが豚児どもは情け容赦なく廃棄してしまうに違いない。その前に地震でも来た日には高さ2mの作り付けの本棚から降ってくる本は、凶器になるだろうし。と、数年来、本の行先に頭を悩ませていましたが、ある時、天啓が。そうだ、患者さんに連れて帰ってもらおう。グッドアイデア。「ご自由にお持ち帰りください」とマジックで書いた小ぶりの段ボールに単行本・文庫本を詰めてクリニックのエントランスに置きました。マッチング？は予想以上に順調で、一か月に10～20冊の本が旅立っていきます。始めは、自分の読んできたものを人様にお見せすることに若干抵抗がありましたが、前後上下4段乱雑に詰め込まれていた本棚がすっきりしてくるのは爽快で、残った本たちも快適そうです。それに旅に出す本を選んでいると、この頃とみに怪しくなってきた頭の中が少しは整理できる気がします。この調子で本棚のスペースが増えたら、以前から欲しかったあの全集、全〇〇巻を思い切って買おうかしらなど考えるのも楽しみ。まだ「断」と「離」は無理みたいです。

（理事 長谷川 奈津江）